

◎健康づくり大学、調査候補地に9地域

|| 来月から2次追加募集―民活機構||

経済産業省所管の社団法人民間活力開発機構（里敏行理事長）は、同機構が温泉地で自治体と連携して取り組んでいる「健康づくり大学」の二〇〇六年度調査候補地の第一次分を内定した。大分県杵築市をはじめ八府県の九地域を選び、八月以降に泉質など同大学の核となる入浴と食事、運動、環境の四療法を実践するための地域資源の調査を始める。同機構はさらに五―十地域程度を第二次分として九月下旬をめどに選定する計画で、八月一日から対象地域を追加公募する。

健康づくり大学は、地域活性化と中高年層の健康志向の高まりを背景に、全国の温泉地で自治体が主導して進めている滞在型の温泉療養プログラムづくりを支援する事業。自治体や商工団体、旅館、大学などと連携して地域特性を生かしたカリキュラムを設け、医師ら専門家の意見を聞きつつ、個人の体調・症状に応じた療養プログラムを実施したり、最適な食事を取ってもらうたりして、健康増進を図る。

第一次分の調査候補地に内定したのは、宮城県蔵王町、福島県二本松市、同磐梯町、新潟県糸魚川市、福井県あわら市、長野県佐久市、静岡県川根町、京都府京丹後市、大分県杵築市の九地域。

二本松市では、山間地の岳温泉を拠点とし、周辺に二十以上ある散歩道を活用したウォーキングプログラムなどを用意。行政から補助金を出すのではなく、関係団体への情報提供などを通じて民間主導で行うことを検討している。

京丹後市は、目の前に広がる日本海を眺めながら漬かれる宇川温泉で、地元で採れる薬草を使った「薬膳（やくぜん）料理」を目玉として提供し、心身のリフレッシュと健康増進の拠点づくりを目指す。

杵築市では、海浜部にある既存施設「住吉浜リゾートパーク」にある温泉と山間地にある山香温泉の泉質が異なる市内二カ所の温泉を活用。地元観光協会と連携し、同パークにある運動施設や、寺社仏閣などの地域資源を組み合わせ、観光振興につなげることを計画している。

第二次分は、新たに追加募集する地域に加え、今回の一次分から外れた地域も含めて選ぶ。追加募集は八月三十一日に締め切る予定。問い合わせは同機構（電話03―3543―8777）まで。